

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことで，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問

「世界史上における様々な法のあり方とその運用」をテーマに，Aは，唐律疏義と，裁判の模擬問答文（偽判文）の一部を資料とし，本文の読み取りや資料の読み解きを通して得た情報を基に，類推する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出しておらず，正答率・識別力の点でも問題はないと考えられる。Bは，中世ヨーロッパの慣習法を資料とした。問3は，空欄に入る文と下線部の状況となる図について適当な組合せを選択する，知識・技能を問う問題で，正答率・識別力の点で妥当であった。問4は，中世の農奴についての知識を，資料の読み取りの力と合わせて問うた。Cは，ブラヴァの法廷記録と関連地図を素材とし，列強によるアフリカの植民地化についての地理的理解や，イスラームの社会制度に関する理解を基に，資料から情報を読み取りまとめる力を問うた。そして問7では，一方で古代ローマの農民に対しての規制に関する立法についての資料を題材に，適切に情報を読み取り，さらに読み取った情報を目的に応じてまとめる力，他方で複数の歴史的事象を比較などして得た類似・差異等に注目して，特徴を考察する力を問うた。極端な解答結果は出しておらず，正答率・識別力の点で妥当であった。

第3問

「歴史に触れるきっかけや，歴史を伝える手段」に焦点を当てつつ，Aはフランス革命を舞台とした漫画を取り上げ，フランス革命の展開過程及びその成果であるナポレオン法典の内容理解を問うた。正答率・識別力がやや低い設問もあり改善に努める所存であるが，大問全体としては，妥当な水準を確保できた。第3問Bは，絵画ピカソ作『ゲルニカ』とアフリカ縦断政策を唱えるローズを描いた当時の風刺画を取り上げ，世界史上における歴史叙述の特徴や対象についての内容的理解，歴史的事象を題材にした図像についての内容的理解，図絵などの資料から，適切に情報を読み取り，さらに読み取った情報を目的に応じてまとめる力，複数の歴史的事象を比較などして得た類似・差異等に注目して，特徴を考察する力を問うた。正答率は，問3は標準的，問4は少し平易であった。Cは，カザフスタンの都市アルマティにある女性兵

士像に関する画像資料を取り上げ、ソ連の歴史に関する内容的理解を問うた。問5では、1926～1939年までのカザフスタンにおける人口の推移を示すグラフなどの複数の資料から、必要な情報を読み取ることができるかどうかを問い、問6では、パネルとグラフの内容から、適切に情報を読み取り、さらに読み取った情報を目的に応じてまとめることができるかどうかを問うた。問5については、平易であり、問6については、正答率は55%程度であった。

第4問

「歴史上に見られた様々な『帝国』のあり方」について、ローマ帝国、ムガル帝国、スペイン帝国と、時代や地域を異にする三つの帝国を素材としながら問うた。Aでは、まずは考察・構想したことについての根拠を推論し、論理的整合性に基づいて、適切な歴史的事象を提示・表現する力を問うた。次いで一つの歴史世界の変容について、適切に資料の情報を読み取りつつ、地理的条件を含めながらまとめ上げる能力を問うた。Bでは、ムガル帝国の政治や文化についての資料から適切に情報を読み取り、複数の歴史的事象を比較などして得た類似・差異等に注目して、特徴を考察する力を問うた。Cでは、スペインの帝国支配の特徴と歴史的推移、及びアメリカ合衆国の帝国主義的政策についての内容的理解を問うた。また、「帝国」についての理解をまとめた選択肢を読解し、知識・論理的整合性に基づいて、適切な解を選ぶ力を問うた。問6については多少極端な解答結果となったことは残念であったが、しかしそれ以外の問いについては正答率・識別力の点で妥当であった。

第5問

「税制度と社会変容」という共通の主題についての班別学習に関する出題である。明清時代の税制度、オスマン帝国の税制度、ドイツ関税同盟の成立を促したリストの主張、GATTの条文、元朝中国における商業税の税率・徴収方法を素材とし、世界史探究で学んできた知識とパネル・資料などから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出しておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問

問1は、律令についての包括的知識を問う問題との評価を受けた。問2は、人物と業績との組合せに関する事実的知識を直接問うのではなく、韓愈などを想起しながら唐代の社会の文脈に即して正答を判別する、文化史を問う良問との評価を受けた。今後も、世界史探究の授業で学んだ知識と資料の丁寧な読み取りから得られる情報の組合せによって正答を導くような問題を作成していきたい。問3は、図像の用い方の工夫に関して評価を受けた。一方で問4は、資料の背景の考察に踏み込んでおらず、資料の読み取りに終始してしまったとの指摘を受けた。読み取りの比重が高くなった側面は否定できず、結果として正答率が高くなってしまった。今後はより思考力・判断力・表現力等を問う問題として資料を使えるように工夫したい。問5は、地図を使った問題という点では工夫が見られると評価された。イタリアの植民地を問うことについては判断材料が地図のみで難易度が高いとの評価を受けたが、解答結果を見る限りでは大きな問題はなかった。問6は、西洋による近代的な法とシャリーアとを対比させることで西洋中心主義を批判的に考察する問題に昇華させることができたのではないかと好意的な評価を得た。問7については、資料から該当の人物を判断した上で、資料の内容を抽象化して生徒の探究事例と比較して類型化する、思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受け

た。

第3問

問1は「フランス革命の展開を，因果関係に基づいて考察する。資料にマンガを使うなど挑戦的な問題」と評価いただいた一方，事象間の相関の弱さも指摘されている。今後も引き続き工夫していきたい。問2は「家父長制に対する概念的理解が求められる」「着眼点に優れた問題」と評価いただいたが，会話文での情報提供や展開が正答率に影響した可能性が指摘されている。引き続き受験者に適切に意図が伝わる出題スタイルを探究していきたい。問3の選択肢2について，やや細かい知識を要求している，「諸地域の交流・再編」という大項目のテーマに沿った選択肢が望ましいとの指摘があった。今後も引き続き努力していきたい。問4は，知識・技能を問う問題であるとの評価を得た。問5は，五カ年計画についての包括的知識を問う，問6は，ソ連の歴史を正確に問う問題とした。メモの内容をパネルからの考察にしたり，パネル内の二つの事象を連動させたりすることで，受験者の持つ知識を再構築させる問題となるように工夫していきたい。

第4問

本大問では，「歴史上に見られた様々な『帝国』のあり方」について問うた。教科書等で触れられていない学説について，資料の内容や会話文から考察させる問1については，思考力を問う良問との評価を受けた。また資料が書かれた時代と領域を示した地図について，年代順に正しく配列されたものを選択させたAの問2については，地図の使い方が優れており，やや難易度は高いものの知識・技能を問う良問であると評価された。Bの問3は，文中の下線部について，最も適当な文を選択する知識・理解を問う問題で，問4については，スーフィズムやウパニシャッド哲学についての包括的知識を問う問題だった。問4については，資料の読み取りを工夫することで概念的理解を問うことができた可能性があるとの指摘を受けた。今後は単なる知識確認に留まらない，工夫に努めたい。Cの問5は，資料の持つ「立場性」に着目して「我らのアメリカ」の範囲を考察する問題として，非常に優れた出題であると評価された。歴史の様々な場面において立場の違いについて考察させるような問題を，今後も出題していきたい。問6は，「帝国」概念に基づき探究事例を再整理する問題として評価もされたが，難易度の高さも指摘された。難易度については，今後の課題としたい。今後もこのような思考力と資料の読解力を問う出題形式を工夫していきたい。

第5問

問1は，基礎的な知識と資料読解の融合問題と評価された。問2は，知識・技能を問う問題であり，ティモール制の概念的理解を求める問題と評価された。問3は，資料を抽象化することと，事例を類型化することの二つの思考のプロセスが求められる良問と評価された。問4は，GATTの条文と第二次世界大戦後の国際経済の概念的理解を問う問題であると評価を受けた。問5は，資料や事例を抽象化して，類型化することで正答に至る，大問のまとめにふさわしい良問との評価を受けた。社会的事象の歴史的な見方・考え方を評価する問題として適しているとも評価された。まとめ問題が受験者の過度な負担にならないよう配慮しつつ，今後も，思考力・判断力・表現力等を問う問題の作成に努めたい。

4 まとめ

以上，問題作成部会として，各問の出題意図と，設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ，問題作成に当たっての留意点についてまとめておきたい。

2年目を迎えた『歴史総合、世界史探究』の共通テストでも、作題に際しては引き続き、諸事象を文字テキストのみならず、地図や図像、グラフ、表など、様々な情報から探究的に読み取るとともに、それらを世界史の大きな枠組みの中に位置付けていく思考を求めるような設問の作成を意識した。その結果、「世界史探究という科目の特性に合わせた問題を出題しようという明確な意図がみられた」との評価を得ることができた。

今回の作題に当たって特に心掛けたのは、以下の点である。

世界史探究の目標に照らして、大問ごとに探究的な共通の学習テーマを設定し、生徒による主体的な探究活動を通して、中間で扱われる個々の事象の比較検討から概念的理解へと昇華していくことを目指した。また、既習事項と、歴史的な見方・考え方を働かせて各種の資料から読み取られる情報との双方を接合することで、正答に至る設問を追求した。こうした技能は、世界史探究の授業の中でも習熟が求められているものと考えられる。これらについては、「大問ごとに授業を想定した大きなテーマが設定されていたり、中間ごとに生徒の学びの場面が設定されたりしており、中間同士や小問同士が相互に関連しながら出題された良問であった」との評価を得ており、一定の水準には到達したと考えるが、今後も更なる工夫を継続していきたい。

全体的な分量については、引き続き課題として指摘されており、今後とも改善に努めるべき点と認識している。その一方で、難易度については「大学入学希望者の学力を測定するものとしては、適正な難易度であった」との評価も受けており、これらの点に留意しつつ、今後とも知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を総合的に問えるような問題作成を心掛けていきたい。